

製品安全データシート

【1, 化学品及び会社情報】

製品名 : サビキラーシルバー
製品種類 : 一液性変性エポキシ樹脂系塗料
推奨用途 : 鉄鋼構造物、その他

会社名 : 株式会社BAN-ZI
住所 : 〒262-0011千葉県千葉市花見川区三角町118
担当部署 : 品質管理部
電話番号 : 043-307-3339 F A X 番号 : 043-307-3337
E-mail : info@ban-zi.jp
改訂日 : 2023年8月24日

【2, 危険有害性の要約】

製品の GHS 分類、ラベル要素

GHS 分類

物理化学的危険性

引火性液体 : 区分 3

健康に対する有害性

皮膚腐食性／刺激性 : 区分 2

眼に対する損傷性／眼刺激性 : 区分 2

発がん性 : 区分 2

生殖毒性 : 区分 1 B

特定標的臓器毒性（単回暴露）: 区分 1

特定標的臓器毒性（単回暴露）: 区分 2

特定標的臓器毒性（単回暴露）: 区分 3（気道刺激性）

特定標的臓器毒性（単回暴露）: 区分 3（麻酔作用）

特定標的臓器毒性（反覆暴露）: 区分 1

環境有害性

水生環境有害性（急性）: 区分 2

水生環境有害性（長期間）: 区分 2

（注）記載なき GHS 分類区分 : 該当せず／分類対象外／区分外／分類できない



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報

引火性液体及び蒸気

皮膚刺激

強い眼への刺激

臓器障害のおそれ

生殖能または胎児への悪影響のおそれ

発がんのおそれの疑い

呼吸器への刺激のおそれ

眠気またはめまいのおそれ

水生生物に毒性

長期または反覆暴露による臓器障害のおそれ

注意書き

予防

取扱う前に全ての安全注意を読み理解する。

容器を密閉する。

熱／火花／裸火／高温等の着火源から遠ざける。

火花を発生させない工具を使用する。

静電気放電に対する予防措置を講ずる。

粉塵／ヒューム／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入してはならない。

取扱い後は汚染箇所をよく洗う。

この製品を使用するときは飲食または喫煙をしてはならない。

屋外または換気の良い場所でのみ使用する。

(適切な処置を講じた時以外は) 環境への放出を避ける。

保護手袋を着用する。

保護眼鏡／顔面保護具を着用する。

必要な個人保護具を使用する。

応急措置

気分が悪い時は医師の診断／手当てを受ける。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合は洗濯する。

漏出物を回収する。

飲み込んだ場合 : 直ちに医師に連絡をする。口をよくすすぎ、無理に吐かせてはならない。

皮膚に付着した場合 : 大量の水と石鹸で洗う。

皮膚 (または毛) にかかった場合 : 直ちに汚染された衣類を全て脱ぎ流水／シャワーで洗う。

吸入した場合 : 被害者を新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。

気分が悪い時は医師に連絡する。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗う。コンタクトレンズを着用し容易に外せる場合は外して洗浄を続ける。

暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受ける

皮膚の刺激が生じた場合：医師の診断／手当てを受ける

眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当てを受ける

保管

施錠して保管する

日光から遮断する

換気の良い所で保管する。容器を密閉する。

涼しい所に保管する

廃棄

内容物、容器を国・地方の規則に従って廃棄する。

有害性

有機溶剤中毒を起こす恐れがある。

アレルギー反応を引き起こす恐れがある物質を含有している。

塗膜を研磨する場合は、粉塵を吸い込まないように注意すること。

環境影響

- ・漏洩、廃棄等の際には環境に影響を与える恐れがあるので取扱いに注意する。特に製品や洗浄水を地面、川や排水溝に直接流さないように注意すること。

物理的及び化学的危険性

- ・燃えやすい液体である。蒸気が滞留すると爆発のおそれがある。
- ・塗料カス、スプレーダスト、清掃等に使用したウエス等は空気中で酸化し、発熱、蓄積すると自然発火する恐れがある。

【3、組成、成分情報】

単一製品・混合物の区分：混合物質

成分名	含有量（％）	CAS No,	化管法政令番号
キシレン（異性体混合物）	35	1330-20-7	1-080
エチルベンゼン	23	100-41-4	1-053
メチルエチルケトンオキシム	0.1～1	96-29-7	—

製品中に 1 % 以上（特定第1種の場合は0.1%以上）含有する化学物質管理促進法（PRTR法）対象指定化学物質（化合物と指定されている場合は当該元素に換算）は、その含有量を有効数字上位2桁で表示する。

政令番号欄には、種一号番号を示す。なお、第2種指定化学物質は含有していない。

危険有害成分

安衛法「表示すべき有害物」又は「通知すべき有害物」該当成分

キシレン、エチルベンゼン

化管法「指定化学物質」該当成分

キシレン、エチルベンゼン

【4, 応急措置】

目に入った場合

水で数分間注意深く洗う。コンタクトレンズを着用し容易に外せる場合は外して洗浄を続ける。

眼の中に全て水が行き届くように洗浄する。

眼の刺激が続く場合は医師の診断／手当てを受ける。

皮膚（又は髪）に付着した場合

付着物を清浄な乾いた布で素早く拭き取る。

溶剤、シンナーを使用してはならない。

直ちに、汚染された衣類を全て脱ぎ皮膚を流水／シャワーで洗う。

多量の水と石鹸で洗う。

皮膚刺激が生じた場合は医師の診断／手当てを受ける。

外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪い時には医師の診断を受ける。

吸入した場合

被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、呼吸しやすい姿勢で休息させる。気分が悪い時は医師に連絡をする。

飲み込んだ場合

口をすすぐ。無理に吐かせてはならない。

嘔吐物を飲み込ませてはならない。

負傷者を安静にし、直ちに医師の診察を受ける。

【5, 火災時の措置】

適切な消火剤

泡、粉末、炭酸ガスを使用する。

不適切な消火剤

水を使用してはならない。

特有の危険有害性

燃焼の際に有毒なCO、NO_x、低分子モノマー等を生成する。

特有の消火方法

安全に対処できるのであれば、可燃性のものを周囲から素早く取り除く。

指定の消火剤を使用すること。

高温にさらされる密封容器は水をかけて冷却する。

消火活動は風上から行う。

消火を行う者の保護

適切な保護具（耐熱着衣など）を着用する。

【6、漏出時の措置】

人体に対する予防措置、保護具及び緊急措置

作業の際には適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用する。

屋内では換気をしっかり行う。

屋外の場合にはできるだけ風上から作業を行う。

環境に対する予防措置

河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

回収、中和ならびに、封じ込め及び浄化方法と機材

不活性の物質（乾燥砂、土等）に吸収させて容器に回収する。

漏出物は密閉容器に回収し安全な場所に移す。

付着物、廃棄物等は関係法規に基づいて処置すること。

衝撃、静電気によって火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。

大量の漏出には盛り土で囲って流出を防ぐ。

二次災害の防止策

漏出物を回収する。

付近の着火源・高温体及び付近の可燃物を素早く取り除く。

着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。

周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。

【7、取扱い及び保管上の注意】

安全な取扱いの為の予防措置

取扱う前に全ての安全注意を読み理解する。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用する。

保護手袋／保護眼鏡／顔面保護具を着用する。

密閉された場所における作業には十分な局所排気装置を設け、適切な保護具を着けて作業をすること。

取扱い後は手、顔等をよく洗い、休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まないこと。

アレルギー体質の人や、皮膚かぶれを起こしやすい人には、はじめから塗装作業を担当させないようにする。

技術対策

〈取扱者の暴露防止〉

容器を接地する／アースをとる。

静電気放電に対する予防措置を講ずる。

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入してはならない。

指定された個人保護具を使用する。

熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざける。ー禁煙。

防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用する。

火花を発生させない工具を使用する。

容器はその都度密栓する。

作業中は、帯電防止型の作業服、靴を使用する。

周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。

使用済みウエス、塗料カス、スプレーダスト等は廃棄するまで水に漬けておくこと。

配合禁忌等、安全な保管条件

〈適切な保管条件〉

施錠して保管する。

換気の良い所で保管する。容器を密閉し、涼しいところに置く。

火気、熱源から遠ざけて保管する。

子供の手の届かないところに保管する。

〈避けるべき保管条件〉

日光から遮断する。

強酸化剤、強酸、強アルカリとの接触を避ける。

【8, 暴露防止及び保護措置】

〈職業暴露限界値、生物学的限界値等の管理指標〉

管理濃度 :

(キシレン) 作業環境評価基準 (2004) $\leq 50 \text{ ppm}$

(エチルベンゼン) 作業環境評価基準 (2012) $\leq 20 \text{ ppm}$

許容濃度 :

(エチルベンゼン) 日本産衛学会 (2001) 50 ppm ; 217 mg/m^3

(キシレン) 日本産衛学会 (2001) 50 ppm ; 217 mg/m^3 (皮)

(キシレン) ACGIH (1992) TWA : 100 ppm

STEL : 150 ppm (上気道及び眼刺激、中枢神経系損傷)

(エチルベンゼン) ACGIH (2010) TWA : 20 ppm (上気道刺激、腎臓障害、渦巻管損傷)

設備対策

屋内塗装作業の場合は、自動塗装機等を使用する等作業者が暴露されない設備とするか、局所排気装

置等により作業者が暴露から避けられるような設備にすること。

液体の輸送、汲み取り、攪拌の装置についてはアースをとれるように設備すること。

タンク内部等の密閉箇所で作業する場合には、密閉場所の底部まで十分に換気できる装置を取り付けること。

個人用保護具等の個人保護措置

呼吸器の保護具 : 有機ガス用防毒マスクを着用すること。

密閉された場所では送気マスクを着用すること。

スプレー作業を行う場合は、適切な保護マスクを着用すること。

手の保護具 : 有機溶剤又は化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用すること。

目の保護具 : 保護眼鏡／顔面保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具 : 取扱う場合には、皮膚を直接暴露させないような衣類を着けること。また、化学薬品が浸透しない材質が望ましい。

衛生対策 : 取扱い後は汚染箇所をよく洗う。

この製品を使用する時は、飲食又は喫煙をしてはならない。

汚染された衣類を脱ぐ。

【9, 物理／化学的性質】

状態	: 非水溶性液体
色目	: シルバー
臭い	: 溶剤臭
pH値	: 知見なし

物理的状态が変化する特定の温度・温度範囲

初留点／沸点	原液 : 136～144℃
融点／凝固点	原液 : 知見なし
引火点	原液 : 25.0℃
自然発火温度	: 知見なし
爆発特性	原液 : 下限／1.0vol% 上限／7vol%
蒸気圧	原液 : 知見なし
蒸気密度	原液 : 知見なし
比重／密度	原液 : 0.97g/cm ³
オクタノール／水分配係数	: 知見なし
放射性	: 知見なし
嵩密度	: 知見なし

【10, 安全性及び反応性】

安定性

通常の保管条件／取扱い条件において安定である。

危険有害反応性可能性

燃焼により、CO、NO_x、低分子モノマー等の有害性ガスが発生する。

混触危険物質

接触による危険性のある物質については、特に情報を有していない。

【11, 有害性情報】

物理的、化学的及び毒性学的特性に関係した症状

急性毒性

経口毒性成分データ

(エチルベンゼン) rat LD50 3500mg/kg (EHC186,1996)

(キシレン) rat LD50 3500mg/kg (環境省リスク評価第1巻、2002)

(メチルエチルケトンオキシム) male rat LD50 930mg/kg (SIDS,2008)

経皮毒性成分データ

(メチルエチルケトンオキシム) rabbit LD50 = 1000mg/kg (SIDS (J)2008)

吸入毒性成分データ

(エチルベンゼン) vapor : rat LC50=4000ppm (ATSDR、1999)

労働基準法 疾病化学物質

キシレン

局所効果

皮膚腐食性／刺激性成分データ

(キシレン) ラビット 500mg 24H:MODERATE

(エチルベンゼン) ラビット 15mg/24H open:MILD

目に対する重篤な損傷性／眼刺激性

(キシレン) ラビット 87mg MILD ラビット 5mg/24H :SEVERE

感作性／皮膚感作性成分データ

(メチルエチルケトンオキシム) IUCLID,2000

生殖細胞変異原性データなし

催奇形性データなし

がん原生

(エチルベンゼン) IARC-Gr.2B ; ヒトに対して発がん性があるかもしれない。

(キシレン) IARC-Gr.3; ヒトに対する発がん性については分類できない。

(エチルベンゼン) ACGIH-A3 (1998); 確認された動物発がん性因子であるが、人との関連は不明

(エチルベンゼン) 日本産衛学会-2B ; 人間に対しておそらく発がん性があると判断できる証拠が比較的十分でない物質。

(メチルエチルケトンオキシム) EU-発がん性カテゴリ 3; ヒト発がん性の可能性がある。

生殖毒性

生殖毒性区分 1 成分データ

(キシレン) IRIS,2003

(エチルベンゼン) SIDS,2005

短期暴露による即時影響、長期暴露による遅延/慢性影響

特定標的臓器毒性 単回暴露区分 1 成分データ

(キシレン) 呼吸器、肝臓、中枢神経系、腎臓 (CERI/NITE 評価 No,62,2004)

特定標的臓器毒性 単回暴露区分 2 成分データ

(エチルベンゼン) 中枢神経系 (CERI ハザードデータ集、1998)

特定標的臓器毒性 単回暴露区分 3 (気道刺激性) 成分データ

(エチルベンゼン) 気道刺激性 (CERI ハザードデータ集、1998)

特定標的臓器毒性 単回暴露区分 3 (麻酔作用) 成分データ

(キシレン) 麻酔作用 (CERI/NITE 評価 No,62,2004)

特定標的臓器毒性 反復暴露区分 1 成分データ

(キシレン) 呼吸器、神経系 (CERI/NITE 評価 No,62,2004)

吸引性呼吸器有害性

吸引性呼吸器有害性区分 1 成分データ

(エチルベンゼン) hydrocarbon,kinematic,viscosity=0.74mm²/s(25°C)

吸引性呼吸器有害性区分 2 成分データ

(キシレン) ICSC(J),2002

【12, 環境影響情報】

生態毒性

水生毒性

水生生物に毒性

長期継続的影響により水生生物に有害

水生毒性 (成分データ)

(エチルベンゼン) 甲殻類 (ブラウンシュリンプ) LC50=0.4mg/L/96hr (CREI_NITE、2006)

(キシレン) 魚類 (ニジマス) LC50=3.3mg/L/96hr (CREI_NITE、2005)

水溶解度

(エチルベンゼン) 0.015g/100ml(20℃) (ICSC,2007)

残留性と分解性

(エチルベンゼン) 本質的に易分解性があり、水中から速やかに揮散する (SIDS、2005)

(キシレン) BOD による分解度：39% (CERI ハザードデータ集、2005)

(メチルエチルケトンオキシム) BOD による分解度：24.7% (既存点検、1982)

生態蓄積性

(エチルベンゼン) log Pow=3.15(PHYSPROP Database ,2005)

(キシレン) log Pow=3.16(PHYSPROP Database ,2005)

土壌中の移動性データなし

オゾン層破壊物質データなし

【13, 廃棄上の注意】

廃棄残留物の記述とその安全な取扱いに関する情報

適切な処置を講じた時以外は環境への放出を避ける。

内容物、容器を地方・国の規則に従って廃棄する。

廃塗料、廃溶剤、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をすること。

排水処理等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理を行うか委託をすること。

廃棄物等を焼却処理する場合には有害ガスを発生するため、適切な焼却温度及び洗浄装置のある焼却炉を使用すること。

容器、機器装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。

空容器は内容物を完全に除去してから処分する。

【14, 輸送上の注意】

国連番号 : 1263

クラス : 3

容器等級 : III

正式品名 : 塗料または塗料関連物質

指針番号 : 128

輸送の特定の安全対策及び条件

取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。

容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。

陸上輸送の場合、消防法、労働安全衛生法、毒劇物法に該当する場合は、それぞれ該当法律に定めら

れる運送方法に従うこと。

海上輸送の場合は船舶安全法に定めるところに従うこと。

航空輸送の場合は航空法に定めるところに従うこと。

【15, 適用法令】

労働安全衛生法

特定化学物質 第 2 類（屋内作業等の塗装業務）

エチルベンゼン

特定化学物質 特別管理物質（屋内作業等の塗装業務）

エチルベンゼン

第 2 種有機溶剤等

キシレン

名称表示危険/有害物（令 18 条）

エチルベンゼン、キシレン

名称通知危険/有害物（第 57 条の 2、令第 18 条の 2 別表 9）

エチルベンゼン、キシレン

化学物質管理促進法（PRTR 法）

エチルベンゼン、キシレン

消防法

第 4 類 引火性液体第 2 石油類非水溶性液体 危険等級Ⅲ

化審法

優先評価化学物質

エチルベンゼン、キシレン

船舶安全法

引火性液体類 分類 3

航空法

引火性液体類 分類 3

海洋汚染防止法

有害液体物質（Y 類）：エチルベンゼン、キシレン

海洋汚染物質 長期間有害性

キシレン

廃棄物処理法

特別管理産業廃棄物：引火性廃油

【16, その他の情報】

参考文献

JIS Z 7253 (2012年)

日本塗料工業会 : GHS対応SDS・ラベル作成ガイドブック「混合物用（塗料用）」改定初版

日本塗料工業会 : 『SDS用化学物質データベース（塗料用）』

原材料メーカーSDS

責任の限定について

本データシートは、作成時または改訂時において、製品及びその組成に関する最新の情報（危険有害性情報、取扱い情報等）を集めて作成しておりますが、必ずしも十分なものではありません。今後法律、規則等の改正、新たな知見及び試験等で新たな情報が得られた場合には改訂をいたします。本データシートに記載のデータは、その製品を代表する値であり、保証値ではありません。本製品を当社が認めた材料以外のものとの混合や仕様、条件下で使用する場合は、使用者にて安全性の確認を行ってください。ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データです。